

令和3年10月1日

校長 浦野浩二

【令和3年度後半戦スタート！】

空気は澄み、空もだんだんと高くなり、とてもさわやかな季節となってきました。みなさん、元気ですか。令和3年度も今日から折り返し、後半戦のスタートです。学校、学年、クラスそして一人一人が目標をもって始まった令和3年度、前半戦を振り返ってみてどうだったでしょうか？私自身は、先生方と一緒に決めた「自ら学び、自ら感じ、自ら創る」というスクールモットーの実現を目指し、常に君たちに高校生としてのあるべき姿を大切に、主体性を持って学校生活を送ってもらいたいと集会や通信でメッセージを送ってきました。まだまだ、道半ばですが、それでも君たちの授業中の様子を見てみると去年に比べ圧倒的に居眠りをする生徒の数が減っているように感じます。まだまだ十分だとは言えませんが、確実に君たちの中に主体性の芽が育っていると感じています。そしてそれは授業だけでなく学校行事や部活動においても同様で、その主体性の芽はやがて自己実現という大樹に成長してくれるものと思います。

昨日の自分より今日の自分、今日の自分より明日の自分、日々成長を感じながら高校生活を送ってほしいと思います。

キーワード：「明日死ぬかのように生き、永遠に生きるかのように学べ」

【心優しき中央生】

（八幡東区七条付近での出来事）

ある夏の日の夕方、八幡東区七条の大きな交差点で白杖を頼りに男性が横断歩道を渡っていた。ところがその男性は歩を進めるごとに横断歩道を逸れていき、やがて車道の方に出て行ってしまった。そこに二人連れの中中央生が通りかかり、その男性に声をかけ腕を取り、元の横断歩道へと導いてあげていた。心温まる出来事でした。～信号停止していた車からその様子を見ていた男性より～

（3号線黒崎付近での出来事）

同じく夏の日の夕方、黒崎バスセンター付近の道路に男性が倒れていた。多くの人が通り過ぎていく中で中央生2名がその男性に声をかけ助けようとしていた。反対車線でそれを見ていた女性が車をリターンさせ現場に向かったが、かなり時間がかかってしまった。その間、二人の生徒はずっとその男性に付き添って来てくれた。その優しさに感動しました。～二人とともに男性を助けた女性より～

心優しき中央生、このような出来事はまだまだたくさんあると思います。私はそんな心優しき中央生を誇りに思います。そしてこのような情報をわざわざ連絡してくれる方々に心から感謝します。通常、学校に掛ってくる電話やメールは苦情ばかり、電話やメールが怒りのはけ口となっています。確かにそのことはわれわれも猛省しなければならないのですが、やはりわれわれ教師としては生徒のいいところも見たいし、評価もしてほしいというのが本音です。だからこういう電話やメールは本当にありがたい。この夏、幸せな気持ちになれた2つの出来事でした。

【気が付けば…】

ふと気が付けば、来週5日(火)から中間考査、令和3年度折り返し最初の考査です。この土日の時間の使い方が勝負です！。しっかりと体調を整え、計画的に、集中して学習に取り組んでください。頑張れ中央生！

「また、テレビを見てしまった。」
「また、スマホを見てしまった。」と
己の弱さや不甲斐なさにどれだけ打ちのめされようと
心を燃やせ
歯を食いしばって前を向け
そして机に向かい教科書を開け！

鬼滅の刃 無限列車篇 煉獄杏寿郎のセリフより一部抜粋